

市政に臨む基本方針

平成 26 年 9 月

苫小牧市長

岩倉博文

去る6月29日に行われました苦小牧市長選挙におきまして、市民の皆さんのご支持とご支援を賜り、引き続き市政運営を担うこととなりました。三期目最初の定例会にあたり、発言の機会を設けていただきましたことに深く感謝を申し上げます。

それでは、私の所信の一端として「市政に臨む基本方針」を申し上げ、市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

はじめに

私は、「ふるさと苦小牧のために、一生懸命いい仕事をした」との思いを抱き、8年前、市政に挑戦することを決意いたしました。そして、市民の皆さんの期待を胸に市長に就任いたしました。当時の市の財政は、平成8年度に56億円あった財政調整基金などをほぼ使い果たすという、たいへん危機的な状況となっておりました。私は、財政健全化が自身に課せられた最重要課題であるとして、人件費をはじめとした歳出の抑制に真正面から取り組むとともに、「民間に委ねられる部分は民間へ」を基本とした民間活力の活用や職員数の削減、事務事業の継続的な見直しなど、積極的な行政改革を進めてまいりました。また、経済活力の源となる企業誘致に力を注ぎ、国際拠点港湾苦小牧港の機能強化とあわせて、雇用の促進や税収の増加に努めてまいりました。これらの取組により、財政状況は改善に向かっており、財政健全化を図る段階から、財政基盤を確立・強化する段階に移行しつつあります。

一方、現状においては、中心市街地の活性化や市立病院の閉鎖病棟の全面再開など、喫緊の課題が残っていることも確かでございます。私は、これらの問題に道筋をつけ、次世代が希望を持って暮らせるまちづくりを進めなければならないとの思いで三期目の出馬を決断し、市長選を戦い抜いてまいりました。期間中には、市民の皆さんから多くのご支援や温かいお言葉を寄せていただき、三度、市政を運営するリーダーとしてご信任いただきました。この期待にしっかりとお応えし、市民の皆さんが、そして子どもや孫の世代が安心して生活できるよう、各種施策を推進してまいります。

基本姿勢と基本政策

以下、市民の皆さんにお示した 25 項目の公約について申し上げます。

I 行革を進め、無駄のない効率的な都市機能をもつまち苦小牧築きます！

◎新たに「財政基盤安定化計画（H28～）（仮称）」と「新行政改革プラン（H27～）」を策定し、効率的な行財政運営に努めます

市の財政につきましては、財政調整基金の残高 20 億円を維持するとともに、公共施設整備基金への積み増しを行い、公共施設の更新に備えてまいります。また、「財政基盤安定化計画（仮称）」及び新たな行政改革プランを策定し、財政基盤の強化、効率的な行政運営や市民サービスの向上に努めてまいります。さらに、保育園の民間移譲や第 2 学校給食共同調理場業務の民間委託に向けて順次、取組を進めてまいります。

土地造成事業会計は、今年度をもって閉鎖するほか、土地開発公社は、第三セクター等改革推進債を活用し、解散時期の前倒しを図ってまいります。

◎限られた財源の中での効率的な予算編成と執行に努めます

歳出構造改革につきましては、時代に対応した効率的かつ効果的な行財政運営を目的としており、既存事業の実施のあり方や妥当性などを評価する行政事業診断を継続的に実施し、見直した予算を「ふくしのまちづくり」などの重点事業に付け替えてまいります。

また、人事評価制度の対象拡大による人材育成を進めるとともに、職員の適正配置や特殊勤務手当の見直しなどに取り組み、効率的な組織運営を図ってまいります。

◎公共施設再配置を進めるとともに、新たに市民ホールの建設に着手します

公共施設白書の内容を踏まえながら統廃合などを検討し、「公

共施設適正配置計画（仮称）」の策定を進めてまいります。

また、老朽化の著しい市民会館につきましては、周辺施設の方向性などを勘案したうえで、防災機能のほか複合的な機能を有する施設として、建設に着手してまいります。

◎広域連携事業を推進します

定住自立圏構想につきましては、本年7月に中心市宣言を実施したところですが、今後は、定住自立圏形成協定の締結や共生ビジョンの策定に向けて取り組んでまいります。

また、昨年度に胆振日高管内18市町及び各種関係団体を構成メンバーとして立ち上げた「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」において、地域経済の活性化や広域連携の強化を目指し、官民一体となった取組を推進してまいります。

◎コンパクトで機能的なまちづくりを進めます

今後の人口減少を見据えて適正化を図るため、市営住宅の配置などについて検討を進めてまいります。

また、CAPプログラムパートⅡにつきましては、11月に開設する、まちなか交流センター「COCOTOMA」を核とした事業や、計画に基づく各種施策を展開するなかで、人材の育成やネットワークの強化に努めるほか、中心市街地で実施する各種イベントを通して、まちなかの魅力向上を図ってまいります。

Ⅱ 産業流通の活性化、働く人の明るい笑顔あふれるまち苦小牧導きます！

◎中心市街地活性化計画を具体的に推進します

苦小牧駅前周辺につきましては、バスターミナルの老朽化や路線再編への新たな対応を図りながら、高齢者や障がい者など、すべての人が利用しやすい駅前交通広場の再整備構想を検討してまいります。

また、中心市街地のビルの建替えにつきましては、まちなか居住支援事業として賃貸住宅建設費用の一部を助成するほか、商業ビルの建替えにあたっては、ふるさと融資制度による側面支援を行ってまいります。

◎企業誘致を積極的に推進し、地域経済の活性化と雇用機会の拡大に取り組みます

経済界や関係企業と一体となったトップセールスを行うとともに、進出企業へのフォローアップ体制の拡充を図ってまいります。また、新卒高校生等雇用奨励金事業により、若年層の雇用機会の創出に努めてまいります。

苫東地域につきましては、リスク分散の適地としてPRし、流通備蓄倉庫をはじめとする物流関連施設の立地など、バックアップ拠点の形成に向けて取り組んでまいります。

◎新千歳空港発着枠拡大や周辺土地利用を進めます

深夜・早朝時間帯の発着枠拡大につきましては、航路下地域との合意を目指し、地域住民に理解が得られる住宅防音対策や地域振興対策を検討してまいります。

また、「植苗・美沢地区土地利用計画」に基づき、開発と保全の調和を基本として効果的な土地利用を促進していくほか、統合型リゾート（IR）につきましては、市民向けセミナーの開催などにより、議論の促進に努めるとともに、国の動向を注視しながら、新たな産業誘致に向けチャレンジしてまいります。

◎とまチョップの活用や新たなイメージ戦略による活性化を推進します

市内外のイベントなどで本市を積極的にPRしている「とまチョップ」につきましては、さらなる活用を図るとともに、「ゆるキャラ（R）グランプリ」の開催誘致を目指して取り組んでまいります。

また、コスプレフェスタにつきましては、本市が有するロケーションを活かした新たなイベントとして開催し、地域振興と誘客促進につなげてまいります。

◎空港、港湾のダブルポートとして、一層の機能強化を図ります

北海道の空の玄関として着実に発展し続けている新千歳空港のさらなる活性化を図るため、一層の機能強化に努めるほか、北極海航路の将来的な発展を見据え、苫小牧港の優位性について積極的なポートセールスに取り組んでまいります。

また、災害に強い港湾や漁港区づくりにつきましては、「苫小牧港港湾BCP」や「漁港区将来ビジョン21」の策定に向けた取

組を支援してまいります。

Ⅲ お年寄りや子供たちが安心して暮らせるまち苦小牧 育てます！

◎効率的な学校施設整備を進め、安心安全な学校給食の提供に努めます

小中学校につきましては、平成 27 年度までに耐震補強工事を実施するほか、耐震改修が困難な施設は、改築による耐震化を図り、安全性の確保に努めてまいります。

学校給食につきましては、アレルギー対応食の提供に向け、調理体制や配膳方法などの検討を進めるほか、認可保育園においては、食物アレルギー対応ガイドを発行するなど、子どもたちの食の安全に努めてまいります。

◎地域急性期病院としての役割を果たす市立病院の機能強化を進めます

医師をはじめとした医療スタッフを安定的に確保してまいります。また、患者へのサービス向上に努めるとともに、地域や関係機関と一層の連携を図り、急性期病院としての責務を果たしてまいります。

さらに、休止病棟への対応につきましては、看護師の確保に努め、一日も早い全面再開に向けて取り組んでまいります。

◎高齢者・障がい者の住みよいまちづくりを推進します

社会福祉協議会や民間事業者の協力を得て、地域で高齢者を見守る体制づくりを進めてまいります。また、「買い物サポートマップ」を作成し、買い物困難者を含め、市民の皆さんの買い物の利便性向上や商業の活性化につなげてまいります。

さらに、ジョブコーチ養成研修に対する助成制度を設け、事業者の受講促進を図るほか、ハローワークとまこまいと連携し、障がい者の雇用機会の充実に向けた取組を進めてまいります。

◎旧道立病院や新保健センターの活用を図ります

旧道立病院の活用につきましては、呼吸器内科診療所の開設を視野に北海道などの関係機関と協議してまいります。また、心身

障害者福祉センターの機能を拡充し、児童の発達支援や障がい者支援の中心施設としての役割を強化してまいります。

さらに、来年4月に開設予定の新保健センター（仮称）につきましては、ヘルスプロモーション事業や健診時のバス送迎サービスを実施するなど、市民の健康づくりの拠点として整備してまいります。

◎消防力の強化に取り組みます

消防力の空白地域の解消のため、新開町に消防本部と消防署機能を移転し、新たな防災拠点としての充実や強化を図るほか、訓練施設を併設し、地域防災力の向上に努めてまいります。

また、老朽化が著しい日新出張所につきましては、建替えに向けて実施設計などの準備を進めてまいります。

IV 自然を生かし、環境と調和のとれた美しいまち苦小牧 守ります！

◎053大作戦を継続し、ごみ減量、リサイクル、環境美化推進に取り組みます

家庭ごみ有料化により、ごみの減量やリサイクル率の向上が図られております。こうしたことから、沼ノ端クリーンセンターの長寿命化に係る改良工事を実施し、糸井清掃センターの廃炉に向けた準備を進めてまいります。

また、家庭ごみの戸別収集につきましては、不適正排出の抑制や高齢者などへの配慮を踏まえ、段階的な実施に向けた取組を進めてまいります。

◎「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」や「道の駅ウトナイ湖」の機能の充実を図ります

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターにつきましては、施設の案内やイベント情報をホームページやフェイスブックで周知するほか、魅力ある行事の検討を進めるなど、多くの市民に親しまれる施設を目指してまいります。

また、道の駅ウトナイ湖につきましては、自然豊かなウトナイ湖のPRと観光情報の発信に努めるほか、新たに展望デッキの設置に向けた協議を行ってまいります。

◎自然災害に強い、快適生活環境のまちづくりを進めます

近年多発している集中豪雨対策につきましては、川沿町雨水幹線や雨水ポンプ所などを整備するほか、ポンプ車を配備するなど、体制の強化に努めてまいります。

また、災害対策につきましては、地域や年代にあわせた災害対策マニュアルの作成を進めるほか、樽前山火山防災訓練の開催や応急給水訓練の実施などにより、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

◎地球温暖化への対応施策を実施します

再生可能エネルギーにつきましては、住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を継続するとともに、苫東地域の立地環境の優位性を積極的にPRし、メガソーラーや蓄電池に関連する産業の展開に向け、取組を進めてまいります。

さらに、CCS（CO₂の回収・貯留）につきましては、市民への情報発信に努めるほか、実用化に関する情報収集やCO₂関連産業の誘致に取り組んでまいります。

◎安心安全な市民生活のための施策を進めます

老朽化が進む豊川コミュニティセンターにつきましては、福祉避難所としての機能にも配慮した大規模改修を行い、利便性の向上を図ってまいります。

また、準防火地域につきましては、市街地の防災性能の維持・向上を図るため、地域指定の見直しを進めてまいります。

**V 心の通い合う、やさしい音楽の流れる暖かなまち苫小牧
愛します！**

◎市民スポーツ推進のための各種施策を実施します

合宿誘致につきましては、新たな助成制度を設け、利用の増加につなげるとともに、オリンピック合宿の誘致を目指し、アイスホッケーをはじめとする各種スポーツの合宿地としてPRしてまいります。

また、平成28年度のスポーツ都市宣言50周年に向けて、「市民スポーツ振興計画（仮称）」の策定に取り組むとともに、市民がスポーツをより身近に感じることができる記念事業を開催して

まいります。さらに、緑ヶ丘公園の庭球場や野球場の改修に着手してまいります。

◎生涯学習機会の充実に取り組みます

学校開放事業につきましては、利用者の推移を見極めながら、対象校の拡充を検討してまいります。

また、人口増加が著しい沼ノ端鉄北地区に「沼ノ端鉄北児童センター（仮称）」を新設し、青少年の健全育成や子育て支援の活動拠点として整備してまいります。

◎男女平等参画都市宣言を踏まえた施策を実施します

全国から様々な世代や立場の方々が集い、学び合う日本女性会議の誘致に努めてまいります。また、女性に対する暴力をなくすため、講習会などでの情報提供や相談体制の強化を図るほか、女性の登用促進については、まずは市役所の中から積極的に取り組んでまいります。

また、「苫小牧市男女平等参画基本計画（第3次）」を策定するなど、男女平等参画社会の実現に向けた施策を促進してまいります。

◎国際交流事業の充実を図り、苫小牧市の国際化を推進します

姉妹都市締結 35 周年を迎えるネーピア市との間で職員の長期派遣交流事業などを実施し、より一層の友好や相互理解を深めてまいります。

また、友好都市である秦皇島市との市民交流事業活動に対して支援し、市民レベルでの交流を深化させてまいります。

◎「カルチャー・アートタウン・TOMAKOMAI」（CAT）政策を実施します

青少年ミュージックキャンプ事業を発展させ、青少年の吹奏楽クリニック事業を実施するほか、実施期間の延長や音楽祭の開催について検討を進めてまいります。

また、文化公園アートフェスティバル開催期間中に、美術博物館を中核とした「苫小牧市美術博物館祭（仮称）」を実施するとともに、「苫小牧市民文化芸術振興推進計画（仮称）」を策定し、文化芸術に対する意識の醸成を図ってまいります。

■ むすび

以上、私が市民の皆さんにお示しした 25 項目の公約について申し上げました。

私たちが生きるこの時代は、少子高齢化と人口減少が同時に進行しており、今後は、社会保障費の増大と税収の減少が予測され、行政運営にとっては、極めて難しい局面を迎えております。

このような中、私は、三期目の基本テーマを「誇れるまち苦小牧へ～活みなぎるふくしのまちづくり～」と掲げました。地域コミュニティが希薄になりつつある今こそ、お互いに声を掛け合い、助け合い、「ふくしの輪」を拡げていく「共助」の精神が必要な時代であると確信しております。また、市役所における業務がすべて「ふくし」につながることを強く意識し、市民のための市役所を築き上げてまいります。

最後になりますが、苦小牧市がこれからも発展を続けていくためには、私が強いリーダーシップを発揮することはもちろん、住民自治の精神のもと、市民一人ひとりがまちづくりに参画することが必要不可欠であります。より良い苦小牧づくりのため、市民の皆さんと対話を重ねながら、目の前に立ちはだかる様々な課題に対して全力でぶつかり、道を切り拓いてまいります。

市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。「市政に臨む基本方針」といたします。

